

2020

美術準備室

つ く る ・ み る ・ 感 じ と る

第 17 号

光村図書

アトリエ訪問
ストリート・アーティスト

エドガー・
ミューラー

作家の肖像
日本画家

山口蓬春

放課後ART

- 埼玉県朝霞市立
朝霞第五中学校
- みんなの参観日

この1点

「虎図襖」
朝吹真理子

内 容 解 説 資 料

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のによって配布しております。

特集
令和3年度版
中学校『美術』教科書のご案内



アイルランド・ダブリンの路上に現れた、足を滑らせたら落ちてしまいそうな氷の割れ目。世界各地で3Dトリックアートを手掛けるエドガー・ミュラーが描いた作品「ザ・クレヴァス」(本誌表紙)だ。チョークやペイントを使い、約5日間かけて仕上げた。
令和3年度版中学校教科書『美術2・3』の「あれ? どうなっているの」(P.20-21)には、この作品が大きく掲載されています。



←「ザ・クレヴァス」の制作過程を撮影した動画が、こちらからご覧いただけます。
この動画は、新版教科書『美術2・3』のP.20左下に掲載されているQRコードからも視聴できます。

ア ト リ エ 訪 問

第 17 回

エドガー・ミュラー

ストリート・アーティスト

世界中の路上が、
彼にとってのアトリエであり、キャンバスだ。
とはいえ、画材などを保管しておく創作拠点は故郷のドイツにある。
訪ねると、愛犬「ウヴェ」とともに、笑顔で迎えてくれた。

文章 浦江由美子 撮影 山田梨詠





溶岩をまとった怪人が出現。
部屋の中にも、
3Dアートを描いている。



角度を変えて見てみると、
トリックが浮かび上がる。

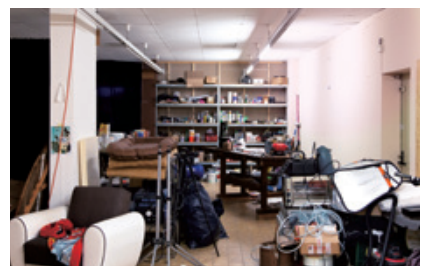


上／輪郭を描く際に使うチョークは、
ミューラーさんが自ら手作りしている。
下／手作りのチョーク。
色別にきちんと並べられている。

ライン川とモーゼル川の合流する街、コブレンツから電車で30分、由緒ある温泉地バート・エムスに、エドガー・ミューラーさんは拠点を構える。凹凸のある地形を好み、15年前にこの土地に移ったという。目抜き通りにある元スーパーマーケットの店舗が、現在の拠点だ。

——トリックアートに取り組もうと思ったきっかけは何でしょうか。

ミューラー 小さいころから絵を描くのが好きで、16歳で正統派の絵画



元スーパーマーケットの店舗を活用した創作拠点は約200平方メートルあり、広々としている。

その瞬間を楽しむ。結果ではない

を習い始めました。そして、作風を模索している内に、ルネサンススタイルのストリート・アートを手がけるクルト・ヴェナー氏を知って、「これだ!」と思いました。外で描いていると、見ている人からエネルギーもらえる。緊張感のある、とてもダイレクトなパフォーマンスです。——どのようにモチーフを選んでいるのですか。

ミューラー 植物、水、溶岩といっ

た、その場に立って危機感や恐怖心、錯覚を覚えるような自然のモチーフを選んでいきます。

大きな作品は最初の2平方メートルくらいが大変。チョークで輪郭を描いた後、小さな筆から最後はモップも使って、アクリル・ペイントで彩色します。現場を見てから何を描くのかを考えることもありますね。気候変動は大きなテーマでもあるので、今使っているペイントから、もっとエコロジカルなほかの素材を探しているところです。

——「ザ・クレヴァス」(本誌表紙)はどんな心境のときに作られたのでしょうか。

ミューラー 実は友人とけんかをしたときの、心の中の氷の状態を表現したのです。完成までは、とにかく大変でした。制作時のダブリンは強風の中、1日に3〜4回も雨が降った

ので、描いた部分が濡れないようカバーで覆うという繰り返しのマラソンのような作業でした。それが1週間続いて、緊張でほとんど寝られなかった。何があっても完成させるという自分の気持ちを汲んで、5人のボランティアが手伝ってくれました。——作品を見た人たちの反応はどうでしたか。

ミューラー 作業中は気を遣って話しかけてこない場合が多いですが、休憩時には「すばらしい」と声をかけてくれる。アーティストは誰かにメッセージが届くことが喜びですが、私の場合、見てくれた人から直接ポジティブな身体のエネルギーを感じることも喜びの一つ。「その瞬間を楽しむ」という、パフォーマンスとか演劇に近い行為かもしれません。1か月もすれば消えてしまうはかなさもありますけどね。

私の仕事は閉ざされた美術館の中ではなく、偶然、街中に居合わせた人が見ることができるため、いろいろな国に行って人々の驚きや感動を知ることが楽しいですね。社会のもつ緊張感、異なるメンタリティーを知ること、ジェスチャーを見ること——結果ではなく、同時性なのです。——「ザ・クレヴァス」は、中学校の新版教科書に掲載されています。美術を学んでいる日本の中学生にメッセージはありますか。



ミューラー SNS全盛の今の時代、なかなか難しいことだけど、人と比べないことがクリエイティブでいる秘けつ。経験や年齢、有名人などに嫉妬したり、羨ましがめることは良くないエネルギーです。自我に固執しすぎずに、自分で何がしたいか、そしてできあがった自分の作品に批判的であることも重要です。——これから、チャレンジしたいことはありますか。

ミューラー バート・エムスは少し寂れた温泉地ですが、8月にレガッタのフェスティバルがあり、観光客が大勢訪れます。この時期に世界中で知り合ったストリート・アートの仲間を招待して、作品紹介ができたらいいなと、今動いているところです。あとは、想像もつかない反応がありそうな、例えばロシアの田舎とかで作品を制作してみたいですね。

エドガー・ミューラー
1968年、ドイツのミュールハイム・アン・デア・ルール生まれ。高校時代、通学途中の路上で見たストリートアートに魅了され、16歳でストリートアートの国際コンクールに出場。その後、コミュニケーションデザインを学び、25歳からストリートアートに専念。現在は、世界を飛び回り、各地の路上に通行人が思わず驚く3Dアートを描いている。

【特集】

新版教科書のご案内

光村図書の新しい『美術』は、学びの姿が見える教科書。

何度も授業を取材し、先生方と議論を重ね、編集作業を進めていきました。

本特集では、編集に携わった先生方に、新版教科書の魅力をご紹介します。

撮影 川原崎宣喜(P.4,6~7,11~15), 鈴木俊介(P.5,8~11)



鼎談

授業が見える教科書

やまざきまさあき
山崎正明

ほくしょう
北翔大学教授・
元北海道千歳市立
北斗中学校教諭

たなかしんじろう
田中真二郎

だいせん にしせんほく
秋田県大仙市立西仙北中学校教諭

さらしなゆき
更科結希

くしろ
北海道教育大学附属釧路中学校教諭

令和3年度版『美術』教科書の編集に携わった3名の先生方に、
制作当時の様子や新版の魅力について、語り合っていました。

1 授業の流れが見える 紙面構成

——新版は、「授業が見える教科書」ということを意識し、題材内容や紙面構成について、何度も編集委員の先生方と議論を重ねました。

山崎 新任の先生が増えているという実態をふまえて、編集会議では「教科書を開いたら授業がイメージできるようにしたい」と話しましたよね。そこから、授業の流れが見える紙面構成が生まれました(P.6~7参照)。

田中 新しい教科書を開くと、一つの題材の中で「表現」と「鑑賞」が青色とオレンジ色のアイコンでそれぞれ示されていて、パッと目に入ってきます。これがすごくいいですね。指導要領では「表現」と「鑑賞」を一体的に学習することが求められていますが、それが自然と行える紙面になっていると思います。

——編集部では、新版を編集する際、実際の授業を取材して、題材の内容を詰めていきました。P.6~7で紹介している「心ひかれるこの風景」

(『美術1』P.22~25)では、更科先生の授業を取材させていただきました。**更科** 授業をするにあたって、題材名の「心ひかれる」というところがすごく大事だと思ったので、生徒たちには、「学校の中で自分のとおきの場所、『宝場所』を見つけよう」と投げかけました。

——取材中、生徒たちが思い思いのお気に入りの場所を見つけていたことが、とても印象的でした。

山崎 教科書の「表現 発想構想」のアイコンのところでは、「見慣れた

基本的な紙面構成—表現中心の題材の場合—

目標

生徒に伝わりやすい言葉で、その題材で身につける力を示しました。
「表現」「鑑賞」の領域ごとに簡潔にまとめました。

鑑賞

題材の初めに、
表現につながる鑑賞作品を掲載しました。
また、対話が生まれるように
鑑賞が深まる問いも示しています。

表現

発想 構想

作品の発想を広げ、構想を練るための
具体的な手立てを示しました。

表現

みんなの 工夫

授業の取材を重ね、
中学生の制作過程を
段階を追って詳しく示しました。

鑑賞

題材の最後にも鑑賞を位置づけました。
表現活動の後に、作品や作者の言葉を
鑑賞することでより学びが深まります。



『美術1』P.22～25「心ひかれるこの風景」



風景を新しい視点で捉え直してみよう」と投げかけて、光を意識する、視点を交える……などの手立てを示していますよね。これもすごいいい。——見慣れた風景を新しい視点で捉えるためにどのような手立てがあるか、授業者である更科先生にもぜひぶん相談させていただきました。

田中 具体的な手立てが示されているから、教師は指導しやすいし、これを見た生徒は主体的に新たな視点で風景を見てみようと思うんじゃないでしょうか。
山崎 また、「表現 みんなの工夫」のアイコンのところでは、生徒2名の制作過程が詳しく紹介されていま

す。それぞれの生徒がどのように主題を見つけ、試行錯誤しながら作品をつくりあげていったのかがわかっていいですね。
田中 すごくライブ感があります。
更科 一度きりの授業を編集部が取材するというので、真剣勝負でした。風景を見て描く題材なのに、曇

りや雨の日もなくて、ひやひやしましたが（笑）。——この授業では100人近くの生徒を取材しましたが、生徒たちがどのように作品を生み出していくのか、絶対に見逃すまいぞという強い思いをもって、毎回授業に臨みました。
山崎 田中先生は「見つめ、感じ取

り、描く」（『美術1』P.10～13）や、「地域の魅力を伝える」（『美術2・3』P.70～73）に掲載されている授業を担当されましたよね。どんなことを心がけて授業しましたか。
田中 生徒が主題を生み出せるよう、導入を工夫しました。また、教科書に掲載される授業なので、全国の先

生方に「自分もこの授業をやってみたいな」と思っていただけのように、あまり長時間にならないように指導計画を立て、また入手しにくい材料などは使わないよう配慮しました。ありのままの授業を取材してもらっているの、生徒の自然な姿が紙面にもあらわれていると思います。



山崎 正明
やまおか まさひろ

北海道生まれ。北翔大学教授、元千歳市立北斗中学校教諭。北海道教育大学札幌校を卒業後、埼玉県で講師を務め、その後、北海道の公立中学校教諭に。全国造形教育連盟事務局。自身のブログ「美術と自然と人」とで、授業実践や生徒作品などを紹介している。近著に『中学校 美術の授業がもっとよくなる50の技』（明治図書 2019年）がある。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

2 中学生が撮影した「うつくしい！」

——新版の『美術 1』P.2～4の「うつくしい！」では、全国の中学生に美しいと思ったものや風景などを撮ってもらい、その写真作品をずらっと並べました。ここにも生徒の生き生きとした姿があらわれていると思います。

田中 こうやって並べて見ると、「人によって美しいと思うものはそれぞれなんだ」と気づくことができますよね。自分にとって美しいとはなんだろうと考えるきっかけになります。それは、美術を学んでいくうえで、最初におさえるべきことなのではないかと思っています。

更科 さまざまな構図や色、そして季節、すべての要素が詰まっているのでとてもおもしろい。多様な見方があって、それ自体が美しいと思います。授業ではこのページをきっか

けに、自分たちで撮ってみるという活動をしてみたいですね。

山崎 生徒の写真と、谷川俊太郎さんの「うつくしい！」の文章が見事にマッチしていると思います。ここに掲載されている写真の中には、田中先生の学校の生徒作品もあるんですよ。

田中 編集部から全国の中学生の写真作品を集めていると聞き、僕は日直の生徒に一眼レフカメラを持たせて「今日一日で、美しいな、いいなと思ったものを撮ってみよう」と投げかけてみました。生徒にとって日直って本来面倒くさいものなのですが、一眼レフカメラを渡すようになったら、はりきって取り組んでいましたよ。校庭から見える夕焼けを撮る子もいるし、部活で使うラケットを撮る子もいる。普段見慣れた風景でもファインダー越しだと、新鮮に見えるので、生徒たちも楽しんでいました。

3 パワーアップした鑑賞題材

——新版では、鑑賞題材もさらにパワーアップさせました。特に先生方がおすすめのものがありますか。

山崎 現行版の教科書にも「ゲルニカ」がありますが、新版(『美術 2・3』P.48～55)の取り上げ方はすごくいいと思っています。題材の構成が、①「『ゲルニカ』を見る少年」という写真作品を鑑賞し「ゲルニカ」の作品の大きさを感じ取る→②4ページ大で掲載された「ゲルニカ」をじっくり鑑賞する→③「ゲルニカ」の時代背景や、ピカソという作家について理解を深める……という流れになっていて、授業しやすくなったんです。

更科 そして新版では、教科書に記載されているQRコードから、「ゲルニカ」の音声ガイドを聞くことができるんですよ。

山崎 この音声ガイドは、鑑賞の授

業の導入に使うことを想定して編集されています。生徒たちの対話が生まれるように、音声の内容がすごく吟味されているんです。1分半程度の短い音声なので、授業でぜひ流してみていただきたいですね。

——ちょっと聞いてみましょうか(音声ガイドを流す)。

田中 うーん、いいですね。鑑賞の授業に苦手意識のある先生や、新任の先生にぜひ使っていただきたい。

更科 この音声ガイドを聞いた生徒は、さまざまに作品の見方を広げていくでしょうね。

山崎 新版では、「風神雷神図屏風」や「神奈川沖波裏」などの大きく掲載している作品について、音声ガイドを用意しています。ぜひ授業で活用していただきたいです。

田中 早く新版を使って授業をしたいですね。教科書を見ているだけで授業のイメージが湧いてきます。

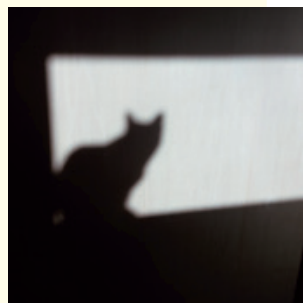
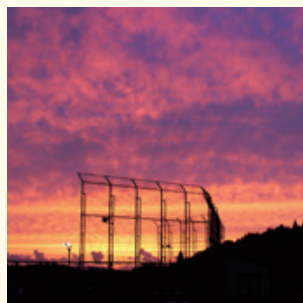
山崎 『美術 2・3』P.2～4の「阿修羅



田中 真一朗
たなか しんじろう

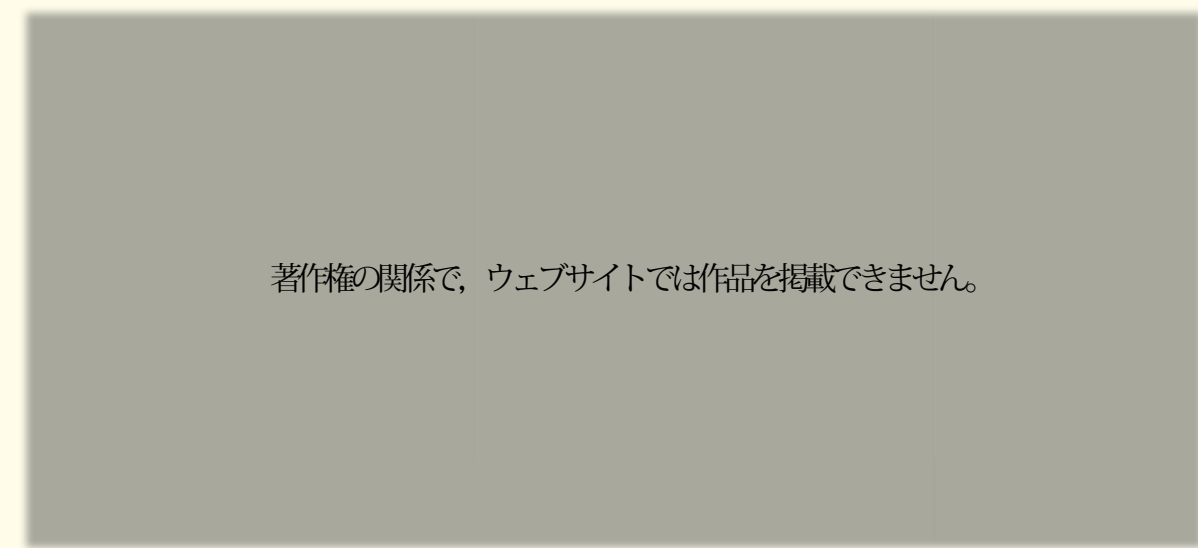
秋田県生まれ。秋田県大仙市立西仙北中学校教諭。宮城教育大学大学院修了後、宮城県私立高校非常勤講師、秋田県内の公立中学校を経て、2013年4月より現職。教育課程研究指定校(国立教育政策研究所、平成26年～28年度指定)。2012年、博報賞受賞。近著に『中学校美術サポートBOOKS 造形的な見方・考え方を働かせる 中学校美術題材&授業プラン36』(明治図書 2019年)がある。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

1年巻頭では、生徒たちが撮影した「うつくしい！」を紹介 /



『美術1』P.2～4「うつくしい！」
全国の中学生に「うつくしい！」と思ったものや風景などを撮ってもらい、並べて掲載。日々の生活の中で美しさを感じとってほしいという願いを込めた。

QRコードから音声ガイドが聞ける /



音声ガイド

「ゲルニカ」
音声ガイドの原稿



ここには何が描かれているでしょうか。
右端を見てください。
両手を高く挙げている人がいます。女性でしょうか。大きく口を開けています。
左へ見ていくと、描かれている人のほとんどが、口を開けていることに気づきます。
開いた口から聞こえてくる声を想像してみてください。……(1分26秒の音声収録されています)



更科結希

さらしなゆき

北海道生まれ。北海道教育大学附属釧路中学校教諭。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。現在、研究主題「創造活動の価値を見出すことができる児童・生徒の育成」の実現に向けて、日々、授業研究を行っている。光村図書中学校『美術』教科書の編集協力者。

像」の見せ方もいいですよ。現行版にも掲載されている作品ですが、新版ではなんと阿修羅の顔が原寸大。

更科 原寸大だから阿修羅の顔にひびが入っていることまでわかる。

田中 実際に興福寺へ行っても、こんなに近寄って見ることはできないんです。でも教科書なら阿修羅の表情に近づいてしっかり鑑賞することができます。きっと、この表情を見た生徒たちから、さまざまな意見や感想が出るでしょうね。

山崎 鑑賞の授業が盛り上がりそうですね。『美術2・3』の巻頭の折り込みを開くと、阿修羅の顔がドーンと現れるわけだから、生徒たちはきっと驚くことでしょう。

書き込んで鑑賞する

田中 「阿修羅像」など現行版に掲載されている鑑賞題材もパワーアップしましたが、新版から新たに掲載された鑑賞題材もすごくいいんです。

例えば、「レオナルドとその時代」(『美術2・3』P.10～15)。「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーが綴じ込まれていて、書き込んで鑑賞できるようになっているんです(詳細は P.14 参照)。

山崎 これは画期的ですね。線を引いて一点透視図法を確認させたら生徒たちが盛り上がりそう。

更科 編集部からトレーシングペーパーを綴じ込むというアイデアを聞いたとき、これはおもしろいことになりそうだなと思いました。トレーシングペーパー1枚で、授業が広がりそうだし、生徒たちは「これはどう使うの?」とワクワクすると思います。

田中 この「レオナルドとその時代」という題材は、美術評論家の布施英利さんが原稿を書いています。布施さんは、光村図書の国語教科書2年の教材文「君は『最後の晩餐』を知っているか」の著者。光村図書の国語教科書を使っている学校では、ぜひ国語科と連携して授業をしてみたいです。

山崎 新版には、この題材以外にも他教科とのつながりを意識した箇所

がたくさんありますので、ぜひ授業で活用していただきたいですね(詳細は P.15 参照)。

比べて鑑賞する

更科 それから、「北斎からゴッホへ」(『美術2・3』P.24～31)もいいなあと思います。北斎の「神奈川沖浪裏」と、ゴッホの「星月夜」が表裏で大きく印刷されているので、北斎とゴッホの関係性が捉えやすい(詳細は P.12～13 参照)。

山崎 そこからジャポニズム(『美術2・3』P.30)や印象派(『美術2・3』P.31)の学習につなげられるような構成になっているのもいいですね。

田中 北斎とゴッホの作品を比べることで、鑑賞がより深まります。「比べて鑑賞する」題材が随所に位置づけられているのは、新版の大きな魅力の一つです。

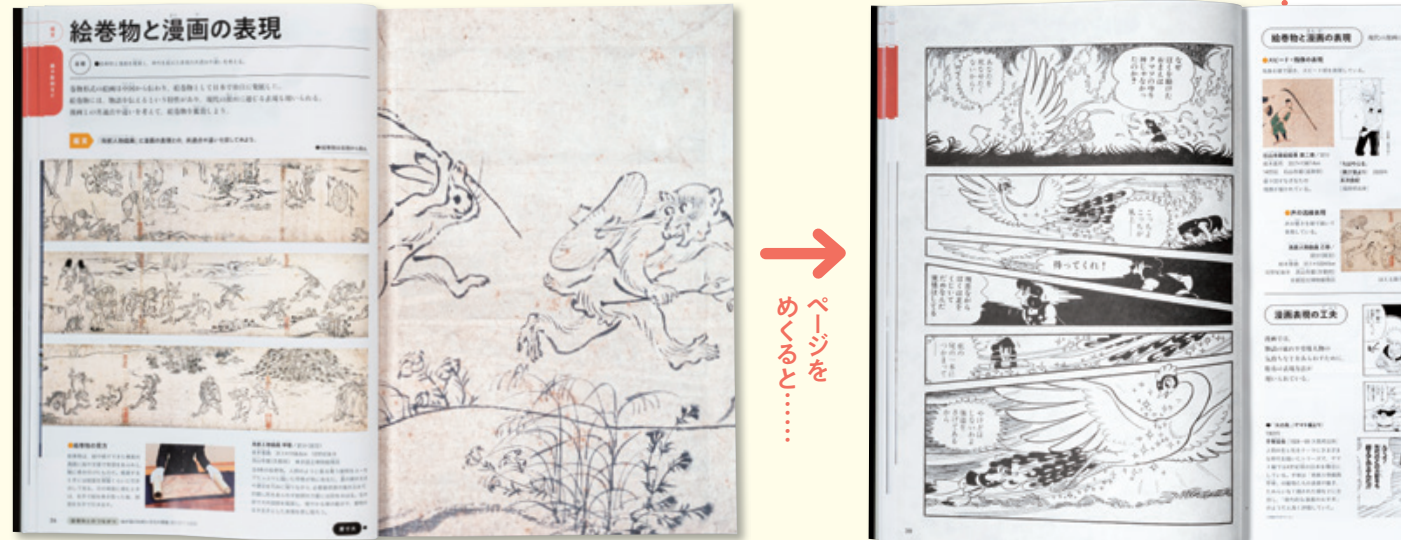
本物に近い風合いで鑑賞

更科 「絵巻物と漫画の表現」(『美術2・3』P.36～39)もそうですね。「鳥獣人物戯画」と漫画「火の鳥」が表裏で印刷されていて、「鳥獣人物



レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーを綴じ込み、書き込めるようにした。

「鳥獣人物戯画」は原寸大で風合いのある用紙に印刷 /



『美術2・3』P.36～39「絵巻物と漫画の表現」
「鳥獣人物戯画」と漫画「火の鳥」を表裏で印刷。越前和紙を再現した高級用紙を使っている。

戯画」と現代の漫画表現を比べさせることができます。それと、この図版は風合いのある用紙に印刷されていますよね。私、この紙の感じがすごく好きなんです。

田中 和紙のような味のある用紙ですよ。これはいい。

山崎 しかも「鳥獣人物戯画」は原寸大で掲載されているから、軽やかな筆づかいなどをじっくり鑑賞させることができます。

田中 僕はこれまでも光村図書の鑑賞題材が好きだったんですけど、新版ではさらにパワーアップしていて、早く授業で使ってみたいです。

4 教科書を手にする先生方へ

——最後に、教科書を手になれる先生方にメッセージをお願いします。

山崎 新版には、中学生のリアルな姿があらわれています。教科書を見た生徒が「自分ならこうしたいな」とか、仲間と学びながら「どうあらわそうかな」とか、そんなことを考



えられる教科書になっています。ぜひ、授業で活用してほしいですね。

更科 新版には、中学校3年間で、生徒たちに会わせたいものがたくさん詰まっています。読んでいてワクワクするので、生徒が主体的にこの教科書を読んで学んでいくこともあるのではないのでしょうか。教師としては、教科書の構成が授業の流れとリンクしているので、どんどん活用していきたいな、活用してもらい

たいな、と思いますね。

田中 新版の表現中心の題材では、最初の導入として、鑑賞活動が位置づけられています。ここは、先生方も生徒と一緒に授業を楽しんでほしい。生徒と対話をして、彼らがどんなことを考えているかということや、一緒に考えられる教科書になっています。とにかく先生も生徒と一緒に楽しんでみる、一緒に考えてみる、そんな使い方をしてほしいと思います。

新版教科書 ここがイチ押し!

新しい魅力が詰まった,令和3年度版中学校『美術』教科書。
編集委員の先生方に,特におすすめのページについて,ご紹介いただきました。

① 比べて鑑賞し,理解を深める

(『美術2・3』P.24~31「北斎からゴッホへ」)



『美術2・3』P.24~26



『美術2・3』P.27~29

主体的・対話的で深い学びが生まれる題材

片観音開きのページを開くと、目に飛び込んでくるのは葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」。海から捉えた構図の大胆さ、渦巻き砕ける波濤と波間から垣間見える富士山との大と小、静と動の対比に気付き、遠近感が強調された空間の妙を味わいます。

ページをめくるとフィンセント・ファン・ゴッホの「星月夜」があります。よく似た構図と絵の雰囲気から「あれ?何か似ている!」と、生徒は第一印象を抱くでしょう。そして前のページの北斎の絵と比較し、なぜそう感じたのかを考えるのではないのでしょうか。

直感的な驚きが関心や疑問を生み、「どこからそう感じたのか」という疑問を解く知的好奇心が主体的な学びにつながります。北斎の波とゴッホの渦巻きのイメージが重なると、それらが何を意味しているのかを、生徒はさまざまに想像し解釈を楽しむことでしょう。

そして、何が日本を代表する浮世絵師と印象派を代表する画家とを結びつけているのだろうと疑問をもつに違いありません。

このように「神奈川沖浪裏」と「星月夜」を表裏で比較しながら鑑賞することによって、それぞれの作品の

よさや北斎がゴッホに与えた影響について、また、ジャポニズムや印象派について単に知識として学ぶのではなく、生徒自身が自分の目で見えて考え対話を通して探究する主体的・対話的で深い学びができるように構成しています。



「美術による学び研究会」会長。高知大学大学院教育学研究科教授を務める。『私の中の自由な美術』、『風神雷神はなぜ笑っているのか』(光村図書)など著書多数。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

北斎とゴッホの作品を比較した後、ジャポニズムや印象派について学ぶ

北斎とゴッホの作品を鑑賞した後、ジャポニズムや印象派の学習につなげられような紙面構成になっています。



『美術2・3』P.30~31



北斎とゴッホを、片観音開き(3ページ)で大きく紹介!

北斎とゴッホの代表作を掲載し,さらに北斎とゴッホそれぞれの作家紹介を設けることで,ゴッホが北斎から大きな影響を受けたことを感じ取れるようにしました。

めくると……

②書き込んで、鑑賞を深める（『美術2・3』P.10～15「レオナルドとその時代」）



『美術2・3』P.10～

トレーシングペーパーが綴じ込み、
書き込みしながら鑑賞できるようにしました。



線を引いて消失点を探し、一点透視図法を学ぶ。



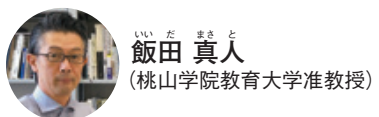
描かれている人物の手や
顔の表情を読み取り、せりふを書き込む。

1枚のトレーシングペーパーで

最初に、編集部から『最後の晩餐』の図版に書き込んで鑑賞するという企画を考えている」と聞いたとき、すごくいいアイデアだと思いました。ただ、図版に直接書き込ませることは少し抵抗を感じ、「トレーシングペーパーを綴じ込んでそこに書き込ませては」と提案させていただきました。その後、編集部ではトレーシングペーパーについて、素材や厚さなどを何度もテストし、生徒が書き込みしやすいものを選んでいったそうです。

このトレーシングペーパーはさまざまな使い方ができます。線を引け

ば遠近法が確認できますし、描かれている人物の手や顔の表情を読み取って言葉を書き込んでもいい。背景を描き加えたりすると新たな物語が生まれてくるかもしれません。ぜひ、この1枚のトレーシングペーパーを使って、作品の見方を広げ、深めていただけたらと思います。



飯田 真と
(桃山学院教育大学准教授)

高等学校教諭を経て、2013年より京都府総合教育センター指導主事。16年よりプール学院大学准教授。18年より現職。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。



『美術1』P.43

美術は文化活動の交差点

今回、編集のお手伝いをさせていただいたことで、あらためて感じた驚きは、自分が中学生だった頃に比べると、美術の教科書が格段の進化を遂げているということ。特に工夫されているのは、他教科との密接なつながりを生徒が自然に感得できるようにした点。例えば、私も大好きなフェルメールの絵が、いかにすばらしいかを語る言葉を探させることはおのずと国語科へ誘う。尾形光琳の「燕子花図 屏風」が、伊勢物語にもとづいていることを語ることは、美術作品と古典文学の関連に気づかせる。ピカソのゲルニカの背景には、

スペインの悲惨な歴史があり、縄文時代の火焰土器には、当時の人々の自然観が表現されていることにも触れる。

私が担当した箇所であれば、エッシャーの有名な敷き詰め模様の作品を取り上げ、それは作家が、鉱物の結晶構造や、生物のウロコ模様が持つ規則性や秩序に興味をもったことに端を発していることを説明し、数学的な平面分割の考え方とリンクしていることを示した。また、自然の中に見られる形やパターンが、自然淘汰をくり抜けた合理的なものであること、それをもとにデザインが

③他教科とのつながりを意識する

題材の随所に、他教科とのつながりを示すコラムを設け、美術での学びが他教科とどうつながるのか、実感をもって理解できるようにしました。

「生活をいどころ文様」という文様をデザインする題材では、1年数学科で学習する「平面図形」と関連させて、エッシャーの敷き詰め模様を紹介。原稿は、エッシャーの大ファンという福岡伸一先生にお願いしました。

「他教科とのつながり」コラム一覧

- ◆国語科とのつながり
「古典文学と屏風絵」(『美術1』P.37)
「漢字の成り立ち」(『美術1』P.45)
「美術鑑賞を広げる言葉」(『美術1』P.80)
「コピーを考える」(『美術2・3』P.59)
- ◆社会科とのつながり
「火焰型土器 装飾に込めた願い」(『美術1』P.53)
- ◆数学科とのつながり
「エッシャーの敷き詰め模様」(『美術1』P.43)
- ◆理科とのつながり
「自然が教えてくれるもの」(『美術1』P.74)
- ◆家庭科とのつながり
「生活を豊かにする食の文化」(『美術1』P.55)



福岡 伸一
(生物学者)

生物学者。青山学院大学教授。米国ロックフェラー大学客員教授。米国ハーバード大学医学部研究員。京都大学助教授を経て現職。『生物と無生物のあいだ』『フェルメール 光の王国』など著書多数。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

作家の肖像

第 17 回

このコーナーでは、
毎回一人の作家を取り上げ、
美術評論家の酒井忠康先生に、
お話をうかがいます。



山口蓬春
1893-1971

やまぐち・ほうしゅん
1893年北海道生まれ。日本画家。
東京美術学校(現 東京藝術大学)
西洋画科入学後、日本画科に転
科。松岡映丘に師事し、大和絵
を習得。1926年、「三熊野的那智
の御山」で帝展特選、帝国美術
院賞。西洋画と日本画を融合さ
せた「蓬春モダニズム」とよばれ
る独自画風を確立した。65年文
化勲章受章。71年、77歳自宅で
死去。91年山口蓬春記念館開館。

クールで、ユーモラス

暗い収蔵庫の中、一人静かに作業
をしていると、ぽかんとこの絵が浮
かんできました。3体の埴輪が描か
れた「宴^{うたげ}」。私がまだ学芸員として駆
け出しだったころ、慣れない手つき
で展示作業をしながら、幾度も目に
した作品です。当時、日本画への関
心は薄かった私ですが、いつもこの
絵を見て、慰められたような気持ち
になっていました。

蓬春さんのもつ色彩感覚というの
は、非常に温度が低いもの。触覚的
に「ひやっ」と感じるのですが、そ
れと同時に、どこかユーモラスな印
象も抱かせる。色彩としてはクール
でありながら、心和ませる絵でもあ
るのです。

観る、感じる、知る

デッサンというのは、西洋画の世
界ではそれ自体が作品として鑑賞の
対象にもなり得ますが、日本画では、
そうではありません。日本画には写
生があり、写生はどこまでいっても、
本画制作のための準備段階に過ぎな
いのです。

蓬春さんは、完全な写生に至るた
めには、観たまま、感じたまま、知
ったままを、残らず描き込まなけれ
ばならない、と著書の中で述べてい
ます。つまり、視覚的な表面の模写
にとどまらず、自身の感情の動きに
よる主観的な解釈を加え、さらに美
を構成する要素が何であるかという
知的分析を加えて構成していく、と
いうわけです。

蓬春さんは、新しい表現を模索し
続け、従来にない日本画の形を開拓
した画家の一人。洗練されていて、

さわやかで、センスのいい人、とい
うのが私のもつ印象です。

ただ、誤解を恐れずに言えば、蓬
春さんの絵には、どこか物足りなさ
を感じてしまうところもあります。
きれいで、行儀が良くて、落ち着い
ていて——。あまりに混沌とした現
代に生きる私たちからすると、蓬春
さんの絵の世界観には、少しなじま
ない部分もあるのです。

一方、だらしない現代だからこそ、
蓬春さんの清澄な世界に浸っていた
い、という気持ちもあります。もち
ろん、これは贅沢な要求でしょう。

会って、話してみたかった

80年代の初め、蓬春さんの亡き後、
春子夫人が、当時私が勤めていた神
奈川県立近代美術館を訪れ、蓬春さ
んが愛読していた書籍やデッサンを
寄贈されました。書籍は2万冊を超え、
永井荷風の著書や、マティスの版画集
「ジャズ」などがあったのを覚えてい
ます。蓬春さんがたいへんな蔵書家
であり、多彩な方面から影響を受け
たことがうかがえました。

作品を見るだけでなく、ぜひ一度、
お会いして言葉を交わしてみたかつ
た——。そう思わせられる絵であり、
画家です。実際に会ったとしたら、
蓬春さんは自慢話なんかはしないで
しょう。率先して、絵について説明
することもない。ただ、豊かな沈黙
に包まれている。そんなふうと思う
のです。(談)

酒井 忠康

さかい・ただやす
世田谷美術館館長、美術評論家。
1941年北海道生まれ。慶應義塾大学卒業。
神奈川県立近代美術館館長を経て現職。
光村図書中学校『美術』代表著者。



「つつじ」

紙 鉛筆、色鉛筆、水彩 34.6×51cm 制作年不詳

山口蓬春記念館蔵

生前は自邸の庭園に季節の草花を育て、写生にいそしんだという。写生は、
表面の模写にとどまらず、感動や分析が包括されなくてはならないとした。

※新版教科書「美術1」のP.13に掲載



左／「宴」

紙本彩色 91×135cm 1960年 神奈川県立近代美術館蔵

青空を背景に、優しく微笑む3体の埴輪を描いた作品。

茨城県下妻市で実際に出土した埴輪から着想を得た。

右／「望郷」

紙本彩色 142×90cm 1953年

日本画に西欧美術の感性を加えた「蓬春モダニズム」の代表作の一つ。

上野動物園のホッキョクグマを写生し、描き上げたと言われる。



美術部へようこそ! 埼玉県朝霞市立朝霞第五中学校

地元の特色を生かした作品づくりに取り組み、
地域との交流を大切にしている美術部取材しました。

写真／川原崎宣喜（右上写真は朝霞第五中学校提供）

国際的「壁画アート」に参加

縦1.5m×横3.6mのキャンバスに
広がる青い空、ドーム状の屋根をも
つモスク、ラクダ——。朝霞第五中
学校の美術部員が描くのは、ウズベ
キスタンの風景だ。大きなビニール
製シートに、絵筆を走らせる。

この取り組みは、「アートマイル国
際協働学習プロジェクト」の一環。同
プロジェクトは、一般社団法人「ジャ
パンアートマイル」が2006年より主
催し、「壁画アート」制作を通じて、
子どもに平和や環境について考えて
もらうことを目的としている。今年
は東京五輪開催を受け、各参加国を
イメージした「壁画アート」を各地
の学校が制作している。

同部では、インターネットでウズベ
キスタンについて調べた後、一人1
枚ずつ、小さな紙に下絵を制作。その
後、下絵の要素を組み合わせて構図
を決め、ビニール製シートにチョー
クで下書きをしてから、専用の絵の
具で着色していった。

2年生で部長の村山彩乃さんは「複
雑なモスクの文様を表現するのが大
変でした。初めて使う画材だったけ
ど、意外と塗りやすかったです」と
笑顔で話した。

個人も共同も全力で

2020年1月時点の部員は、1年生
12人、2年生17人の計29人。校内
の部活動でも上位の部員数で、なか
なかの大所帯だが、部員は学年の枠



を超えて仲がいい。美術室では、4
人1組の班ごとに机が並んでおり、
その班は学年混合で編成されている。
学期ごとに席替えも行う。

また、同部では年2回、個人の作
品をコンクールなどに出品している
が、部全体の共同制作にも力を入れ
ている。合唱コンクールや地域の祭
りの看板づくりも、活動の一つだ。
昨年の「3年生を送る会」では白黒
のアニメーションを制作し、全校生
徒の前で披露した。

自主性を重んじる活動

近隣地域との交流も活発だ。同部
は毎秋、埼玉県こども動物自然公園

で開かれる「アートフェスタ」に参
加している。この催しは、アートを
通じた公園活性化を目的に、近隣の
中高生美術部員が作品を展示する
というもの。2019年には、各校がオ
リジナル絵馬をつくったり、合同で
ワークショップを行ったりした。

「活動を長続きさせるには、一人
一人が主体性をもつことが大切」と
話すのは、顧問の飯田成子先生。「壁
画アート」への参加も、「3年生を送
る会」のアニメーション制作も、部
員たちが自ら「やりたい」と声をあ
げ、先生は見守るだけだったという。
自主性を重んじる姿勢が、自由な創
作につながっている。



左／29人の大所帯だが、
部員は学年の枠を超えて仲よし。
メリハリをつけて、活動に取り組んでいる。
右上／合唱コンクールなどの校内行事の
看板をつくるのも、活動の一つ。
下／「アートマイル国際協働
学習プロジェクト」の一環で制作している
壁画アート。ウズベキスタンの
美しい風景が描かれている。

教室を飛びだして

みんなの参観日(岡山県立美術館)

美術の授業における学びをさまざまな人に感じてもらうと、
岡山県立美術館で始まった「みんなの参観日」をご紹介します。



広い世代が集まる美術
館で、小中学校の図工・
美術の授業を体感して
もらう企画展「みんなの参観日」が、
岡山県立美術館で始動した。

各地で開かれている児童生徒の美術
作品展とは、一味異なる。単に作
品だけを展示するのではなく、子
どもたちが授業で使ったワークシート
なども一緒に並べることで、ありの
ままの制作過程を見てもらい、子
どもの豊かな発想や個性を感じてら
うことを目的としているのだ。

第1回は、1月12日～19日(前期)、
2月23日～3月1日(後期)に開かれ、
県内の小学校4校と中学校6校が参
加。会場では、地域の和菓子店と連
携して紙粘土で和菓子をつくる授業
や、自分の魅力をあらわす名刺づく
りの授業などの様子が、実際の作品

やワークシート、パネルの展示を通
して紹介された。

展示では、“上手”な作品だけを選
んで並べるのではなく、クラス全員
の作品を紹介しているのが特徴。同
美術館主任学芸員の岡本裕子さんは、
「あくまで『美術による教育展』なの
で、すべての子どもが感じた学びや
発見、先生が題材に込めたねらいや
仕掛けなどを感じてほしい」と力を
込める。

1月19日には、粘土で和菓子をつ
くるワークショップも開かれ、地元
の中学生をはじめ、未就学児から一
般まで幅広い世代が参加した。

今後も年1回のペースで継続し、
将来的には未就学児や特別支援学校、
高等学校にも対象を広げていきたい
という。多様な美術の授業を紹介し
ていくつもりだ。



粘土で和菓子をつくる授業を、
ワークショップで体験する参加者たち。

放課後

第17回

ART

ほんものをみるって なんだろう

インフルエンザにかかっていたとき、布団を敷いて、ひたすら寝ていた。まだらに眠っていて、だるいなと思いながら目を開けると、飼っている白猫が枕もとに寄ってきていた。なに、と思うけれど、猫は私を枕の上からじっと見下ろしてくる。私をじっと見下ろしていたとき、この猫は、私を心配しているというより、食べようとしているのではないかと思った。そのくらいじっと見下ろされた。捕食される側になった気分で、

かわいい、というよりも、怖かった。猫は私のにおいを入念に確認すると部屋を出て行ってしまった。芦雪もこんなふうに猫をみたことがあるのかしら、と思った。
芦雪の「虎詣」には何度か出かけている。何度みても飽きないし、部屋に入った瞬間、飛びかかってきそうな虎に驚く。しっぽがくるりっと巻いていて、興奮して毛羽立っているのも、かわいい。一様な光のもとでも、スピード感がすごいから、蠟燭の灯りでみたりしたら、怖いのかもしれない。
無量寺までは遠いけれど、むっち

りとした蘇鉄に迎えられて、明るい気持ちにいつもなる。
芦雪の「虎図襖」の真裏に、猫が湖の中の魚をみているすがたが描かれているため、魚からみた猫は虎なのだ、という読み解きを読んだことがある。
江戸時代、何度か生きた虎が輸送されたりしているけれど、みな海を渡る前に亡くなってしまう。それに、生きて日本に着いたとしても、みられる人はほんのわずかだ。
絵師たちはどうやって虎を描くか、みんな苦心してきた。円山応挙は、虎の毛皮をみて実寸大にうつして写

生をしてから虎を描いたり、岸駒(※)は、虎の頭骨や足の骨を買って、測定しながら虎の姿を想像したりして、応挙よりリアルな虎の絵を描きたいと願っていた。当時の人にとって、幻獣に近かった「虎」を描くときの、アプローチの仕方の違いも面白い。
本物をみて気づくこともあるけれど、本物をみただけから描けるわけではない。芦雪は目が魚の目になれるくらいに、ものをよくみていた。
芦雪は虎をみたことがないことを、そしてお寺に来る人も虎をみたことがないことをわかったうえで、おかしく描いている。それらしく虎っぽ

くしないで、このすがたはまさしく虎でしょう、という瞬間を、すごいスピード感で描いている。猫が獲物を捕まえに行くときの緊張感のある毛の逆立ちや、おっきな前足の爪。猫は、獲物が油断をする一瞬をずっと待つことができる。獲物の方が疲れた弱みをみせた瞬間、すさまじい速度でとらえる。体がやわらかくて、俊敏で、音がない。
そんなしなやかな「大猫」のすがたに、見惚れる。

※岸駒
江戸時代中期から後期にかけて活躍した画家。迫力ある虎の絵を得意とした。



第 17 回 とら す ふすま 虎図襖 なが さわ ろ せつ 長沢芦雪

襖6面、紙本墨画 右2面 各180×87cm、左4面 各183.5×115.5cm
1786年 無量寺蔵(和歌山県串本町)
※新版教科書『美術2・3』の表紙に掲載

朝吹真理子
あさぶき・まりこ

作家。1984年東京都生まれ。
慶應義塾大学大学院
文学研究科修士課程修了(近代歌舞伎専攻)。
大学院在学中に小説を書き始める。
2009年、「流跡」でデビュー。
2010年、同作でドゥマゴ文学賞を最年少受賞。
2011年、「きことわ」で芥川賞を受賞。
著書に「抽斗のなかの海」「TIMELESS」など。

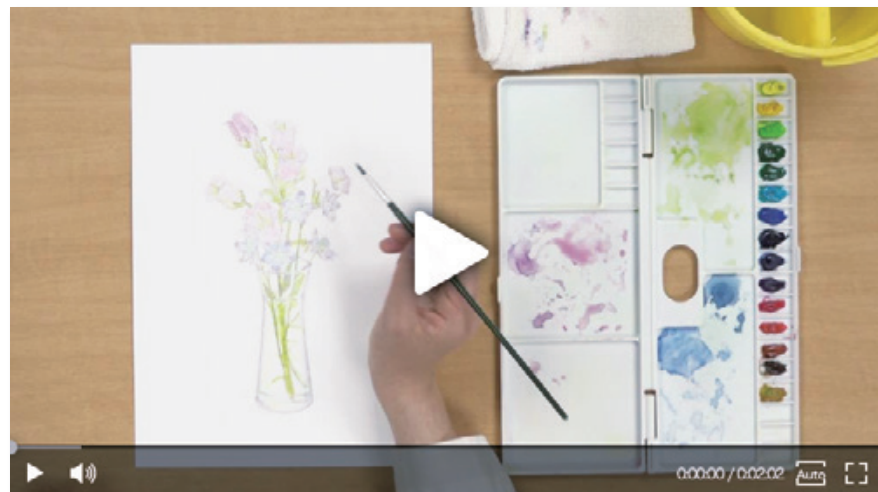
授業が広がる・深まるウェブコンテンツ

令和3年度版『美術』では、教科書の随所にQRコードを掲載。

技法や用具の扱い方の動画や鑑賞を深める音声ガイド、
立体の生徒作品をさまざまな角度から鑑賞できる360度動画などをご用意しました。

技法動画 全33本

制作の流れを追った早回し動画や用具の使い方など、
表現活動に役立つ映像資料です。



紙面のQRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると、動画や音声を簡単に再生することができます。

例えば「見つめ、感じ取り、描く」(『美術1』P.10～13)では、身近なものを水彩で描く際の一連の流れを、早回し動画で見ることができます。

音声ガイド 全5本

教科書に大きく掲載されている作品の
音声ガイドを聞くことができます。
鑑賞の授業の導入にご活用ください。

【音声ガイドを聞くことのできる作品】

- 「風神雷神図屏風」
(『美術1』P.31～34)
- 「最後の晚餐」
(『美術2・3』P.13)
- 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
(『美術2・3』P.25～26)
- 「星月夜」
(『美術2・3』P.27～28)
- 「ゲルニカ」
(『美術2・3』P.49～52)



360度動画 全21本

立体の生徒作品について、
いろいろな角度から鑑賞できる動画です。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



好きな角度で止めて見るできるので、
さまざまな視点で作品を鑑賞することができます。

教科書訂正のお知らせ

令和2年度用中学校『美術2・3』教科書では、平成31年度用から下記の箇所を訂正いたします。
校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

ページ	行など	29年度	30年度
90	キャプション 5行目	ガラス高台碗 ガラス、エナメル彩 高さ各17cm 2013年 林 久美子 [1958～ 東京都出身]	ガラス高台碗 ガラス、エナメル彩 高さ各17cm 2013年 林 久美子 [1958～2018 東京都出身]

美術準備室 No.17

2020(令和2年)年5月1日

発行人 ■ 小泉 茂

発行所 ■ 光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 : 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ■ Better Days(大久保裕文+深山貴世)

印刷所 ■ 株式会社 加藤文明社



光村図書